

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公表特許公報 (A)

(11)特許出願公表番号

特表平10-510196

(43)公表日 平成10年(1998)10月6日

(51) Int.Cl.⁶
A 6 1 F 2/06
A 6 1 M 29/00

識別記号

F I
A 6 1 F 2/06
A 6 1 M 29/00

審査請求 有 予備審査請求 有 (全 76 頁)

(21)出願番号 特願平8-527550
 (86) (22)出願日 平成7年(1995)9月15日
 (85)翻訳文提出日 平成9年(1997)9月10日
 (86)国際出願番号 PCT/US95/11817
 (87)国際公開番号 WO96/28115
 (87)国際公開日 平成8年(1996)9月19日
 (31)優先権主張番号 08/401, 871
 (32)優先日 1995年3月10日
 (33)優先権主張国 米国(US)
 (31)優先権主張番号 08/508, 033
 (32)優先日 1995年7月27日
 (33)優先権主張国 米国(US)

(71)出願人 インプラ・インコーポレーテッド
 アメリカ合衆国アリゾナ州85280-1740,
 テンペ, ピー・オー・ボックス 1740, ウ
 エスト・サード・ストリート 1625
 (72)発明者 パナス, クリストファー・イー
 アメリカ合衆国アリゾナ州85213, メサ,
 ノース・アルバ 2524
 (72)発明者 エドウイン, タラン・ジェイ
 アメリカ合衆国アリゾナ州85226, チャン
 ドラー, ウエスト・ダブリン・コート
 5302
 (74)代理人 弁理士 社本 一夫 (外5名)

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 体腔内用の封止型ステント及びその製造方法並びにその体腔内への導入方法

(57)【要約】

長手方向に膨張した少なくとも2つのポリテトラフルオロエチレン(ePTFE)被覆の間に封止された少なくとも1つのステント部材を含む、半径方向に膨張可能なステント-移植体及びその製造方法である。この少なくとも1つのステント部材(22)は、半径方向への膨張を許容し得るようにステントの壁面に形成された開口部を有する。該少なくとも2つの長手方向に膨張したePTFE被覆(24、26)はその非焼結状態にて少なくとも1つのステント部材の上方にて周方向に付与され、ステント(22)の壁面の周りで且つ該壁面を通じてePTFEを接着すべく周方向圧力を付与する間に焼結される。この焼結したePTFEは、少なくとも1つのステントの略連続的な單一体で且つ一体の封止部を形成する。ステント移植体(10)が半径方向に膨張したとき、ステント及びePTFEノード小繊維ミクロ構造体は半径方向に変形する。ePTFE封止部が半径方向に変形する結果、半径方向膨張軸線内にてノード延伸が生ずる。ステント-移植体(10)が半径方向に膨張した後、略接着領域は完全な状態を保ち、ステントを生体

